

令和2年度学校評価表

奈良県立登美ヶ丘高等学校

<p>教育目標</p>	<p>自他敬愛に基づく協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成するとともに、自ら定めた目標に向かって意欲的に取り組む態度を育てる。</p>	
<p>運営方針</p>	<p>日々の学習活動を大切にして生徒の進路実現を目指すとともに、学校行事や部活動を通して「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成する。</p>	
<p>平成31年度の成果と課題</p>	<p>本年度重点目標</p>	<p>具 体 的 目 標</p>
<p>学校行事の、企画進行において、生徒を主人公にした取組は、周囲からも高い評価を受け、本校教育の特徴の一つとして定着してきた。今後も、いろいろな機会において、生徒のもつ潜在能力を引き出すため、積極的に登用していきたい。また、国際高校の開校に伴い、国際化に向けた授業改善、評価や働き方改革に伴う職場環境の改善等について、各教科をはじめ学校全体の運営体制を意識して取り組む必要がある。その為に「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の工夫、展開や、その実現に向けた、教員の授業力のさらなる向上を目指したい。また、国際化に対応しうる教員の資質向上のための研修を実施するなど、一層の組織力強化に向けて取り組んでいきたい。</p>	<p>キャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のあらゆる活動を通して、将来のビジョンを描くことができるように進路指導を充実させる。 ・規範意識を高め、信頼される人間の育成を図り、コミュニケーション能力を向上させる取組を推進する。
	<p>学習意欲と学力の向上 自立した学習習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ早く進路目標を設定させ、目標達成のためにHRや個人面談を充実させる。 ・基礎基本を大切にし、論理的思考力・表現力・判断力を育成するために授業改善や工夫を図る。
	<p>グローバル人材育成(国際理解)の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史や風土を知り、郷土を愛する精神を育成する。 ・国際高校の開校に伴い、グローバルなコミュニケーション能力を高めるために、英語教育を充実するだけに止まらず、全教科においてそのことを意識し工夫された内容を展開する。
	<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校教育活動に対する地域住民の理解を得るための取組を推し進めるとともに、地域の持つ教育力を積極的に取り入れる。 ・開かれた学校としてあらゆる機会を利用して情報を発信する。
	<p>学校の組織力の強化と教育力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況や課題の共有化・焦点化を図り、解決に向けた方策を探る。 ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を積極的に図る。 ・学校評価を活用し、外部評価を念頭に置いた改善を図る。 ・教育相談体制の構築による生徒支援体制をさらに強化する。
	<p>働き方改革を念頭に置いた職場環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健康及び福祉の確保を図る。 ・長時間労働の是正と適切な労働時間の確保を目指す。 ・職場環境でのジェンダー・フリー(社会的性の多様性)を目指す。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標
第2学年	全ての生徒が安心して学校生活が送れる環境づくり	日々の観察や面談等により、生徒の状況を的確に把握するよう努める。 円滑な情報の伝達と、共有、協力(報告・相談・連絡)に努める。
	第2学年としての立ち位置を意識した学校生活の指導	基本的な生活習慣や規範意識を大切に、登美高生としての自覚ある行動がとれるように導く。 学校行事、部活動、学級活動への参加を周囲と協力しながら積極的に行っていく姿勢を身に付けさせる。 総合的な探究の時間を通して、主体的に学ぶ姿勢を身に付け、進路選択の参考になるように取り組ませる。
	自主的な取組を通じた進路目標の設定	具体的な将来或いは進路の目標が設定できるよう、進路ホームルームの充実や進路室の活用を促進する。 進路実現のための、基礎学力と応用力を身に付け、集中して学習に取り組めるように指導する。
	第3学年	健康的で規律ある学校生活を通じた自立心の育成
自己の将来像を見据えた進路目標を的確に定め、向上心をもって目標達成まで粘り強く努力する生徒の育成		「総合的な学習の時間」とCT(朝の自主的な学習の時間)を活用して、進路についてしっかりと考えさせて地道に学習させる。充実した実力養成講座を実施し、講座満足度が80%以上の魅力ある講座を目指す。 進路実現のための、基礎学力と思考力を身に付けられるように、集中して学習に取り組むように指導する。自習室の指導体制を徹底させる。
自他敬愛の意識を持ち、連帯感・協調性を身に付けた社会性ある生徒の育成		学校行事に積極的に取り組ませ、3年生としての自覚をもち、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させる。
		部活動に引退まで取り組ませ、達成感の中での人間的成長を促す。 さまざまな学校生活の中で互いの違いや個性を認め合いながら、進路実現に向けて学年・クラス全体で努力できる仲間づくりに努める。
総務企画部	生徒主体の式典の充実と教職員の指導力向上	厳粛で温かみのある生徒主体の(入学式・)卒業式及び着任式・離任式、規律のある始業式・終業式・修了式を企画運営する。
		学校評価計画表を作成し総括会議を実施することで、本校の教育活動を点検し、教職員の指導力向上を目指す。
		授業公開および各種アンケートを実施し、保護者・生徒・外部関係者等の本校への評価を明らかにし、結果を教育活動に反映させる。
	育友会・各種団体・同窓会との連携強化	育友会・各種団体との円滑で緊密な連携と協力体制を築く。育友会活動への保護者の積極的な参加を働きかけ、組織の活性化を図る。 定期的な監事会を実施し、監事間の連携で同窓会活動の活性化を図る。登美ヶ丘高校として記念となる同窓会総会を企画運営する。
広報活動の改善と充実	学校ホームページの積極的活用を通じて、本校からの情報発信と広報活動を推進する。	
教務部	学力向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」の推進	アクティブ・ラーニングの形態を取り入れた授業を全ての教科で実施するとともに、国際化に対応しうる教員の資質向上を意識した研究授業や研修機会の充実を図り、生徒の学力向上を図る。
		シラバスを活用した観点別評価を全ての教科で推進し、生徒一人一人に応じた手立てを探究するとともに実態に応じた授業改善を図り、生徒の学習意欲を高める。
	校務の情報化による円滑な運営	統合型校務支援システム等ICTを利用し、定量的効果(業務時間の削減)と定性的効果(教育の質の向上)を図る。
		登美ヶ丘高校と国際高校の情報共有の円滑化を図る。
授業時間の確保と少人数授業の推進	時間割の変更や考査前の授業調整を円滑に行い、各教科間においてバランスのとれた授業時間を確保する。 少人数授業の特性を生かすとともに、特別教室の活用を工夫して、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を推進する。	

生徒指導部	基本的な生活習慣の確立とマナーの向上	遅刻を最小限におさえ、年間全学年1.5%未満を目標とする。
		学期に一回の全校集会と毎日ショートホームルームでの指導を行う。
		週3回の昇降口指導、週1回の中登美ヶ丘3丁目と6丁目の通学路指導を行う。
		1学期に1回の自転車集会、年間に1回の自転車点検を行う。
		生活委員会による学期に1回の挨拶運動を行い、挨拶の励行を推進する。
	職員と生徒が自然に挨拶をかわす、明るい校風の推進	特別支援を必要とする生徒の支援と、関係分掌との連携を密にし、明るく健全な生徒の育成に努める。
		アンケート「教えてください」等を活用し、「いじめ等」のアンケートを基に個々の生徒理解に努める。
		職員と生徒が自然に挨拶をかわす、明るい校風をより一層推進する。
		人権教育部との連携を図り、合同ホームルームの充実を図る。
学校行事、部活動の活性化	学校行事において生徒会役員及び各種委員会の生徒との連携を密にし、その充実を図る。	
	文化祭実行委員会の活動を補佐し、その充実と活性化を図る。	
進路指導部	向上心を持って、粘り強く努力した生徒が希望の結果につながるようなサポート体制の確立	生徒個々に対しては、校外模試を利用した動機付けを行い、スケジュールに基づく学習に取り組ませる。
		集会・面談等を通じた意識付けを行うとともに、キャリア設計に対する理解を深めさせる。
	生徒が自主的に学習に取り組める指導体制の充実	実力養成講座を通じて、目的意識をもって自主的に学習する態度を養う。
	的確な進路情報の提供による保護者の意識啓発	保護者対象の進路説明会を行い、進学・就職に対する理解を深めてもらう。 配布物を通じて、保護者に情報を提供する。
人権教育部	さまざまな人権問題を自らの課題と考え、周囲のなかまと力を合わせて解決していく生徒の育成	3年間を見通した人権ホームルーム活動の年間計画に沿った取組を推進するために、指導案の作成や資料等の収集に努める。
		他の分掌と連携しながら、多角的に人権問題にアプローチできるような工夫を行う。 人権について発信する機会を月1回設けて、人権問題を日常的に考えられるように努める。
	他者との個性のちがいをよく理解し、共に社会生活を送ることのできる生徒の育成	ろう学校との交流会を複数回実施することにより、社会における共生の在り方について考える機会とする。
健康教育部	健康的で安定した学校生活を送れる生徒の育成	各種検診等の結果を踏まえ、自ら健康的に生活できるような態度を身に付けさせる。
		医療勧告書などにより治療しながら生活していける態度を涵養する。
		掲示物などを用い、健康に対する啓発活動を展開する。
	運動・食と健康の関連性の理解の深化	体育行事を通して運動と健康との関わりや必要性を理解させる。
		体育行事や部活動を通して一体感や愛校心を育成する。
		食習慣の実情把握を行い、正しい食習慣を実践できるような態度を育てる。
	学校内・外の環境美化に努める意識の醸成	自主的に校内外の環境美化活動を推進できる態度を育成する。
		校内外において分別収集などを推進し、生涯にわたり循環型社会を担うことを理解させる。
		購買の利用やマナーの向上のための啓発を行う。

文化図書部	読書習慣の確立	各教科・各分掌との連携を図り、蔵書の充実を行い、年間貸し出し冊数2000冊以上を目指す。 図書委員会を学期毎に開催し、広報活動を充実させる。
	文化・芸術・伝統への理解推進	文化講座を実施し、日本を含め世界各地の文化に対する関心を高める。
		異文化理解を深めるために、様々な書籍をそろえ、生徒へ発信する。
		文化委員会を学期毎に開催し、文化祭や文化講座などの充実に努める。
生徒会指導部	生徒主体の生徒会活動の展開を国際高校を含む校内の様々な連携で行う	各専門委員会を定期的に各学期に1回以上開き、全校が集う行事または、掲示物などで取り組み、全校生徒へ発信させる。
		総合的学習の時間、探究の時間などで培われたプレゼンテーション能力が生かせる機会を各学期に1回以上、学校行事に取り入れる。
		母校愛を育て、互いの部活動を尊敬しあう気持ちを養い、挑戦する姿を応援できる仲間を構築する行事を展開する。
	「地域とともにある学校づくり」の双方向での発信	本校と国際高校の生徒が、地域の教育機関を通じ、登美ヶ丘周辺地域と連携する行事を各分掌・教科・部活動などの特別活動を通じて、グローバル(ローカルからグローバル)の双方向な地域行事を3回以上行い、地域の構成員として参画する機会をもたせる。
国際教育部	異文化に触れ、違う価値観を享受し、他者を尊敬できる姿勢の涵養	異文化理解の資料作成・体験の機会を設ける等、互いの「違い」を認め、他者を受け入れる心を育む。
		国際理解委員が中心となり、国際交流行事・多文化理解等に関する発信をし、生徒の意識を高める。
	語学研修、海外留学制度や海外派遣、留学生の受入等による広い視野をもった人材の育成	語学研修をはじめとする、海外研修や長短期留学に参加する生徒を増やす。
		長短期の留学生受入や訪日団の受け入れを通して、異文化理解をすすめる。
英語を含む外国語の検定試験の積極的な利用啓発と生徒の検定資格の取得促進	実用英語技能検定・GTEC等の案内をし、生徒それぞれの進路に応じた受検を促し、進路実現につなげる。	
	検定受検に伴い、対策講座や対策用教材の充実を図る。	
国語科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	日々の授業を通しての基礎・基本の徹底	音読指導を単元毎に行い、言葉に対する感性を高める。
		古典文法を理解させることに努め、50%以上の生徒に基礎力の定着を図る。
	日常の生活の中での語彙や活字に対する興味喚起	新聞教材など話題性のある教材や作品を効果的に扱う。 図書室と連携し、関連教材の提示を効果的に行う。
授業における自己表現の場の充実	アクティブラーニングをふまえた自己表現の時間を10%設定する。 様々な場、形式で「書く・発表する」ことで、表現の楽しさを味わい、自己表現に対する抵抗感を軽減する。	
地歴・公民科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	基礎・基本の充実	知識の定着を目指し(認知プロセスの外化)、レポート、小テスト等を単元ごとに一度は課し、学習状況を確認する。
		論理力の育成を図るために、単元ごとに一度はまとまった資料を読む機会をもつ。
	地理・歴史・公民に対する知識理解の深化と地理的・歴史的・公民的思考力の育成	視聴覚教材やICTの積極的な利用(年間授業時間数の10%程度は用いる)を進める。 学期に一度は、調べ学習を実施し、生徒が自主的に学び、活動する機会を設ける。
アクティブラーニングを実施することを通して、21世紀を生きる根源的な力(キーコンピテンシー)を育成する。	学習仲間と関わり、協力するために単元に一度はペアワーク・グループワークを行う。	

数学科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	基本的な知識の習得と技能の習熟並びにそれらを的確に活用する能力の育成	苦手な生徒には個別指導を行い、追認考查対象生徒をなくす。得意な生徒には問題集を自主的に解かせ、実力養成講座への参加を促す。
	粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価しようとする態度を育成する。	定期考查直前に学習を始めるのではなく、普段から計画的に学習し、評価シートを利用して分からない問題を把握し、解決できるように指導する。
	数学的な見方や考え方を認識し、数学の美しさ・おもしろさを感じられる生徒の育成	授業に集中させ、興味・関心をもたせる教材を工夫する。身の回りの現象を数学的にとらえた教材を積極的に授業に取り入れる。また、そういった問題を解くとき、グループワークなどのアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。
理科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	十分な教材研究に裏打ちされた、生徒が主体となる授業の充実	毎授業内で、身近な例を1つ取り上げ、関連付けを行う。
	各単元に対応した観察・実験による自然科学に対する興味・関心の高揚	各考查毎に最低1回の観察・実験を行う。
	理系学部進学希望者の進路実現	個々の生徒が必要としている情報を厳選して集める。入試問題を研究し、入試に対応できる実力の向上を図る。
保健体育科	運動に主体的に取り組む体験による生涯にわたって運動を継続する力の育成	グループ学習、グループノートの内容の充実を図り、各種目1人2~3回提出させる。運動に主体的に取り組む体験を通して、生涯にわたって運動を継続する力を身に付けさせる。
	運動の合理的な実践による健康の保持増進と基礎的体力の向上	体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の技能・体力の程度に応じて配慮できる能力を育てる。体育理論では、スポーツの意義や歴史、文化的特徴の理解およびスポーツに対する意識の向上を図る。
	健康と安全について理解の深化並びにそれらを改善・維持・管理する力の育成	生き生きとした社会生活を送るために必要な健康に関する知識を習得する。生涯にわたって健康に生活するために、生活習慣の指標を身に付けさせる。応急手当やAEDの使用法を含めた心肺蘇生法の手順を実習を通して身に付けさせる。
英語科	より良い評価方法の確立	観点別評価やパフォーマンス評価を実施し、生徒の実用的な英語力の育成を図るとともに指導に役立てる。
	5領域(リスニング・スピーキング(発表)(やりとり)・リーディング・ライティング)をバランスよく学び、生徒が英語に興味・関心をもつような指導の工夫	定期考查やパフォーマンステストを通して、生徒の学習度合いを把握する。また、Writing課題を定期的に行い、Feedbackをするなどきめ細かい指導を行う。
		国際教育部と連携しながら実用英語検定の2次試験対策などの指導に努める。
		CTを活用するなどしながら、語彙力や文法など、基礎力の強化に努める。
	リーディング力向上に必要な語彙力や文法力の定着	教科書、補助教材を活用し、最低でも毎週1回小テストを行い、語彙力などの強化に努める。
		リーディングの基本となる単語については、2年生で3500語、3年生で5000語の習得を目指す。
2年生は少人数編成による講座の実施により英語表現力及びスピーキング力の強化を目指す。また3年生では実力養成講座等で生徒のニーズに応じた指導を目指す。		
家庭科	より良い評価方法の確立	シラバスを活用した観点別評価を導入し、生徒一人一人に応じた学力の向上を図る。
	人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術の習得	学期毎に2回はタイムリーな話題を取り入れ、実生活との関わりについて理解させる。
		基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせるために、実習などの体験学習を効果的に取り入れる。
		主体的に学ぶ力を付けさせるために、グループワークなどのアクティブラーニングを取り入れた学習を行う。
		観点別評価を取り入れるとともに、生徒の自己評価表を活用し、学習効果の向上に努める。
家庭や地域の生活課題を主体的に解決する実践的な態度の涵養	ホームプロジェクトに取り組ませる。 奈良県高等学校家庭クラブ連盟の会計校としての役割をしっかりと果たさせる。 本校の学校家庭クラブ活動を充実させ、参加させる。	